

1. 件名：「浜岡原子力発電所3号機及び4号機の地震等に係る新基準適合性審査に関する事業者ヒアリング(107)、(140)」

2. 日時：令和3年6月9日（水）13時30分～14時50分

3. 場所：原子力規制庁9階耐震会議室

4. 出席者（※：TV会議システムによる出席）

原子力規制庁：内藤安全規制調整官、熊谷管理官補佐、佐口主任安全審査官、海田主任安全審査官、谷主任安全審査官、西来技術調査官、磯田係員

中部電力株式会社：原子力本部 原子力土建部 執行役員
中川原子力土建部長 他10名※

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. 提出資料

<<本年5月19日に受取済み>>

- ・ 浜岡原子力発電所 敷地ごとに震源を特定して策定する地震動について
- ・ 浜岡原子力発電所 敷地ごとに震源を特定して策定する地震動について（補足説明資料①）（敷地における地震動の増幅特性）
- ・ 浜岡原子力発電所 敷地ごとに震源を特定して策定する地震動について（補足説明資料②）（地震動の顕著な増幅を考慮しない地震動評価（震源モデル及び地震動評価結果の詳細））
- ・ 浜岡原子力発電所 敷地ごとに震源を特定して策定する地震動について（補足説明資料③）（地震動の顕著な増幅を考慮する地震動評価（震源モデル及び地震動評価結果の詳細））

- ・ 浜岡原子力発電所 敷地ごとに震源を特定して策定する地震動について
(補足説明資料④) (敷地ごとに震源を特定して策定する地震動に係るその他の補足説明)
- ・ 浜岡原子力発電所 地震動の顕著な増幅を考慮する地震動評価について
(コメント回答)
- ・ 浜岡原子力発電所 新規制基準適合性審査 指摘事項リスト

時間	自動文字起こし結果
0:00:03	原子力規制庁のサグチです。それでは今からですね、浜岡原子力発電所の地震動の顕著な増幅を考慮する地震動評価についてのコメント回答、それから、敷地ごとに震源を特定して策定する地震動
0:00:19	に関するヒアリングを始めさせていただきます。よろしくお願いいたします。
0:00:27	よろしくお願いいたします。中部電力アマンです。先週いわゆる浜岡のプレート間地震の津波評価他の審査会合ありがとうございましたまでそれは今サグチさんからご説明いただいた通りで、地震動の顕著な増幅を考慮する地震動評価についても、
0:00:44	コメント回答と敷地ごとに震源を特定して策定する地震動についてのまとめ資料について、2回目のヒアリングということで御説明させていただきたいと思えます。説明性が30分弱となりますのでよろしくお願いいたします。
0:01:03	中部電力の市川です。よろしくお願いいたします。
0:01:07	それでは、順番に修正事項について説明していきます。
0:01:12	修正した箇所につきましては、A4縦のホチキスどめの表形式の資料のほうにすべて記載しております。
0:01:21	細かい修正内容につきましてはそちらの2ページ以降に記載しておりますけれども、割愛させていただきます、
0:01:29	1ページに主立ったものを示しておりますのでそちら順に説明していきます。
0:01:36	まずナンバー1の修正事項です。
0:01:40	前回のヒアリングでは940回の会合のコメント回答を特定しての本資料の最後の項目に付ける形としておりましたが、
0:01:50	コメントを踏まえまして、特定してのほうの資料を
0:01:55	増幅を考慮する地震動評価のコメント回答という資料と
0:01:59	を特定してのをまとめ資料というものに付ける形に変更しました。
0:02:05	そして分けたことを踏まえましてこの増幅ありのコメント回答資料についてははコメント回答としての体裁を整えておりまして、
0:02:15	コメント回答資料の1ページにコメント等をその回答概要を2ページ目にコメント回答資料のが、概要を掲載して、
0:02:26	以降は3ページに示す目次の通りに構成をしております。
0:02:33	こちら内容につきましては基本的には前回提示したものと変わりありませんけれども、例えば一緒については6停止の資料から分けたことを踏まえまして、
0:02:45	12ページから17ページのほうに通うプレート内地震の地震動評価についての資料を追加したりとか、

0:02:52	計算書について対象とするモデルのパラメーター表を追加したりしております。
0:03:00	また前駆方向にする背景も増幅させた評価のまとめとしまして、
0:03:07	コメント回答資料の 55 ページから 57 ページを追加しております。
0:03:17	55 ページは、その記載内容はそこまでの資料で説明していることをまとめたものをでして、
0:03:25	箱書き基地で示すケースについては背景を増加させたケースをSsの策定の先に採用するという旨を説明しております。
0:03:34	56 ページはその 3 ケースの時刻歴は計で 57 ページには、その 3 ケースも含めたすべてのケースの応答スペクトルの重ね書きを
0:03:44	を追加しております。
0:03:47	この 3 ページのを追加した資料につきましてはそのまま特定してのまとめ資料に掲載することで、特定しての資料にこのコメント回答を反映する形としております。
0:04:01	一方を測定しての本資料につきましては今のコメント回答もへの対応も含めて構成を見直しております。
0:04:11	特定して本資料の 4 ページをお願いいたします。
0:04:21	4 ページに目次示しておりますけれども、本資料の構成を一部見直しております。
0:04:28	まず 2 章の敷地における地震動の増幅特性につきまして、前回ヒアリングの資料では 5 号炉周辺の増幅要因等を敷地における地盤増幅特性の項をそれぞれ設けておりました、
0:04:43	重複する内容がかなりありましたので、構成を見直して、
0:04:47	変位の 1-1 から 2-1-3 で地震観測や地下構造調査解析検討についてそれぞれ単独で述べて、
0:04:56	2-1-4 でまとめとして、号炉増幅要因としてのまとめ等を敷地における増幅地盤増幅特性のまとめを示す形としております。
0:05:08	また寒い地震動の顕著な増幅を考慮する地震動評価について、前回資料では電通の増幅の反映方法というところを設けておりましたけども、こちらの内容も多く 2-2-2 棟をかぶるものがありましたので削除して、
0:05:26	基本的な内容は 2-2-2 に入れまして、詳細は補足説明資料④で補足する形に変更しております。
0:05:37	次にナンバー2 の修正事項です。
0:05:41	特定しての本資料の 3-2-4 除く管理の可溶プレート内地震の地震動評価につきまして、

0:05:49	前回のコメントを踏まえまして増幅方向にする背景の小断層も全国コールする地震動評価の結果を織り込んでおります。
0:05:59	具体的には 397 ページから
0:06:08	映像深いのか受けない地震のを断層モデル法の評価結果をお順番に掲載しております。
0:06:16	まずこちらは従来通り背景は増幅させない評価結果を計算しておりますが、そのあと 401 ページから 403 ページに先ほど増幅ありのコメント回答で追加した資料を
0:06:30	こちらに追加して増加へのコメント回答を踏まえた特定しての資料に仕上げております。
0:06:37	そして 401 ページ以降にあります。オートスペクトルのほうを断層モデル法の重ね書きであったり、すべての地震タイプのを重ね書きにつきましても、大変対象のケースにつきましても背景を増幅させたものに変更しております。
0:06:55	補足の③も同様に対応しております、こちらはより詳細に速度は系やケースごとの応答スペクトルを掲載しております。
0:07:08	続いてナンバー3の修正事項です。
0:07:12	特定しの本資料の 5 ページをお願いします。
0:07:22	こっち側は特定しての概要を各地震タイプ増幅ありなしで 10 に示しておりますけれども、
0:07:28	前回ヒアリングでは一部のモデルについてのみ、あらかじめ考慮するよ、不確かさの記載をしております、
0:07:35	今回コメントを踏まえて各地震タイプの基本震源モデルすべてについて、あらかじめ考慮する不確かさ設定方法を記載するとともに、
0:07:44	不確かさの考慮についても詳細を括弧書き等で詳細に記載するようにしております。
0:07:51	また 9 ページ以降の申請時からの主な変更内容については赤く基本震源モデルについて、地震規模を追記したり、
0:08:01	発生層の不確かさについて上端深さを追記したり、不要な行を削除したりしております。
0:08:08	前回コメントありました。増幅ありの内陸地殻内地震が追加になったことにつきましては、
0:08:15	12 ページの上の箱書きのした表の下に※1 を追記しておりますので経緯を記載するようにしております。
0:08:27	続いてナンバー4の修正事項として例えば特定しての本資料 29 ページ。
0:08:36	ですけれども、

0:08:39	ここに示すような観測点の配置であったりとか、測線配置を示す際に用いている敷地につきまして、
0:08:46	いわゆる敷地境界までのものにしてすべて変更しております、実質の審査資料 7 と整合をとるようにしております。
0:08:59	続いてナンバー5 の修正事項としてたと思えば戻っていただいて、本資料の 20 ページなどをですけども。
0:09:10	箱書きに地震の名称書いてございますが、こういったところで書くわけで地震の規模を追記しております。
0:09:19	ほかの部分、ページにつきましても大間地震の名称あるところについては、
0:09:23	極力時新規防水か追記するようにしております。
0:09:30	No.6 の修正事項としては今開いていただいている被害地震のページであったり前の地震分布の推移につきまして、
0:09:38	用いるデータを建材公表されて使用できる範囲まで拡大しております。
0:09:47	もっと先に説明しますけどNo.14 の修正事項として 21 ページにM Δ図のほうを追加しております。
0:09:59	No.の修正事項としては記載している通り資料中のレシピの年代につきまして、2017 年オオノ 2020 年に修正して、
0:10:09	おります。また全国地震動予測的につきましても 2020 年度版が公表されたので、
0:10:15	関連するところは年代を修正したり、追記をしたりしております。
0:10:24	続いてナンバー8 の修正事項ですが、例えば特定しての本資料の 153 ページをお願いします。
0:10:42	こちらを例として御前崎海脚整備の断層体の応答スペクトル法の評価結果を示しておりますけれども、
0:10:50	評価対象周期Eにつきまして来追記しております、0.02 秒からのもの以外につきましては、
0:10:58	こちら等注釈の上から 4 行目、の中ほどからのように、各距離減衰式が評価対象としている周期を追記しております。
0:11:14	続きNo.9 の修正事項については、かようプレート内地震の野田の方法による評価に用いる補正係数につきまして、
0:11:27	検討地震の選定で用いるものと検討地震の評価で用いるものがあることを踏まえて記載を適正化しております。
0:11:36	具体的にはまず本資料の 233 ページですけども。
0:11:54	こちらは検討地震の選定に用いる補正係数の説明書になっております、

0:12:00	箱書き一つ目の丸に増幅なしの検討地震の選定におけるNodaの方法による地震動評価にあたっては、
0:12:08	観測記録から算出した補正係数を用いるというふうに記載して、
0:12:12	また右のタイトルにつきましても増幅なしの検討用地震の選定に用いる観測記録に基づく補正係数としております。
0:12:23	一方 100 オオミナミ 159 ページの方は、
0:12:28	現状指針の地震動評価に用いる補正係数で、
0:12:34	こちら箱書きを追加して火曜オペレーター地震の検討地震のオオノだの方法により評価にあたってはと。
0:12:41	いうふうな記載をして検討地震の地震動評価に用いることを明確にしております。
0:12:53	続いてナンバー10の修正事項ですけども例えば本資料の200、12ページですけども。
0:13:12	こちらのプレート間地震の応答断層モデルを用いた手法による地震動評価の手法を記載しているところございまして、
0:13:20	箱書き三つ目の丸 2E滑り速度時間関数として三角形関数を用いると。
0:13:27	いうことを記載しておりますが、これについて前回コメントいただきましたので、
0:13:33	※の3でページ右下のほうに敷地において長周期が卓越した地震動が得られた2004年紀伊半島南東沖の地震の本震のシミュレーションにより妥当性の確認をしていると。
0:13:47	いうことで追記をしておりますこれ違うスラブ内地震も同様に追記をしております。
0:13:54	そしてこのシミュレーション内容につきましては補足説明資料04のほうにいつていただきまして、
0:14:05	④の432ページから資料を追加しております。
0:14:22	こちらの補足説明資料④-29の前半ではですね、カイダのプレート内地震の検討用地震に選定しなかった。沈み込む海洋プレート内地震について。
0:14:34	震源特性を反映した2009年駿河湾の地震の互選2004年紀伊半島南東沖の地震の観測記録を分析したり、
0:14:44	その震源特性を反映した大間崎の機能を想定沈み込む海洋プレート内地震の地震動評価を実施したりしておりますが、
0:14:54	今回432ページから、この長周期が卓越した2004年紀伊半島南東沖の地震の震源特性を反映した震源モデルを
0:15:03	432ページの左の図に示すようにこの地震の震源位置に配置して、断層モデル法による評価を行って、

0:15:11	観測記録と比較を行ったという資料を追加しております。
0:15:16	このモデルの断層モデル法の詳細につきましては 433 ページの右下の箱書きに記載しております、
0:15:25	滑り速度時間関数は三つ目の丸に記載している通り三角形関数を用いています。
0:15:36	観測記録と評価結果の比較が 434 ページで、赤で示す評価結果の地震動レベルが
0:15:44	青で示す長周期が卓越した観測記録よりと同程度になっていることを確認したとしておりまして、これをもって先ほどの※3 の記載の通り、滑り速度時間関数の妥当性を確認しているということです。
0:16:02	ちょっと先に説明しますが、No.17 の修正事項についてこちらのところが関係しますのでさっき説明します。
0:16:12	これまでの審査で今後基準地震動の策定において説明するとか、検討するとしていたものが三つありまして、
0:16:21	この沈み込む海洋 β 自身の評価もそれに該当します。
0:16:26	具体的には 435 ページに示すように御前崎沖に想定した沈み込む海洋プレート間地震につきまして、
0:16:34	断層モデル法による評価を行った結果が 437 ページとなります。
0:16:41	これについてピンクの箱書きに示す通り、長周期地震動が卓越する検討しについては当該評価結果やプレート間地震等の評価結果を含めて、基準地震動の策定において検討するとしておりますけれども、現時点でこの沈み込む海洋プレート内地震の評価結果側がどの程度の長周期どの程度のレベルにある。
0:17:01	何かということを確認するという観点で、
0:17:04	今回 438 ページに、
0:17:07	地震規模が大きくて、より長周期地震動が卓越すると考えられるとプレート間地震の検討用地震の断層モデル法による評価結果と比較した結果を追加しております。
0:17:19	矢印のところに記載している通り、長周期を含めて灰色で示すプレート間地震の検討地震を対象とした地震動評価結果のほうが、
0:17:29	敷地への影響が大きく黒字で示すへ御前崎沖沖の想定沈み込む海洋プレート内地震の評価結果包絡されることをこの資料で確認と追加した資料で確認しております。
0:17:45	同様に追加したものの二つ目が補足説明資料④-292 ページになります。
0:18:03	こちらはFボックスに関する補足説明で、本来はMACCSとQ値はトレードオフの関係にあるものの、

0:18:12	ヤマックス 6Hzから 13.5Hzに変更してQ値はそのままとしてプレート間地震の評価を行った結果を掲載しているところです。
0:18:21	この結果については箱書き矢印のところに示す通り、
0:18:26	基準進度への影響については今後基準地震動の策定において説明するとしておりますが、こちらでも現時点のレベルを確認する目的で、次のページに各地震タイプの断層モデル法による評価結果等を当初申請時のSDPとの比較を行った資料を追加しており、
0:18:45	変化としてはご覧の通り、うまく 13.5Hzケースの結果が包絡されるものとなっております。
0:18:54	三つ目は補足説明資料④の 304 ページになります。
0:19:05	304 ページには、プレート間地震につきまして、Nodaの方法以外の距離減衰式で評価した結果を掲載しています。
0:19:14	いずれの距離減衰式もデータベースの関係で、適用範囲外と判断しておりますけれども、
0:19:20	矢印のところに示す通り、基本評価結果等を基準地震動の関係については今後参考として基準地震動の策定において説明するとしております。
0:19:31	これにつきましても現時点でのレベルを把握する目的で、次のページに各地震タイプの応答スペクトル法による評価結果等を当初申請時のSDPの比較を行った資料を追加しております。
0:19:46	結果としては、それらに包絡されるものとなっております。
0:19:56	続いてナンバー11 の修正事項ですけれどもすみませんまた資料戻っていただいた本資料の 44 ページ 45 ページになります。
0:20:18	こちらの多点連続観測記録の分析員につきましての資料を示してるところですけども、
0:20:25	コメントを終わりましたので、追加観測点の説明資料を 4445 ページに追加しております。
0:20:34	内容につきましては以前説明した内容から変わりありません。
0:20:41	続いてナンバー12 の修正事項としては、こちらコメントを踏まえまして本資料の 48 ページから 50 ページに、
0:20:52	海底試掘トンネルにおける観測記録の分析について、資料を追加しております。
0:20:59	こちら内容も(2)いい審査で説明したものとなっております。
0:21:07	今 13 の修正事項としては、こちらコメントを踏まえてフレネルゾーンに関する分析にかせる記載資料のほうを本資料等を補足説明資料のほうからは省略する形とさせていただきます。

0:21:33	続いて、
0:21:35	No.15 の修正事項について、
0:21:40	すみませんまた資料変わって補足説明資料の④ですけども④-117 ページお願いします。
0:22:00	こちらをコメントを踏まえまして、アスペリティの応力降下の不確かさを考慮した震源モデルの応答断層モデル法による評価についての補足説明資料を追加しております。
0:22:12	具体的にはまず 118 ページに内陸地殻内地震の評価において、アスペリティの応力降下量の不確かさを
0:22:19	のホールとしまして、
0:22:21	新潟県中越沖の大地震の知見を踏まえ、レシピによるアスペリティの応力降下量を短周期レベルの 1.5 倍としたケースを考慮する旨と、
0:22:31	その計算方法を説明した資料を追加しており、
0:22:35	119 ページにはN-17 断層の加配破壊開始点 1 を例に、
0:22:41	基本震源モデルに対するアスペリティの応力降下量の不確かさモデルのアスペリティフーリエスペクトル比を算出し、
0:22:49	他の消費側で概ね 1.5 倍になることを確認した資料を追加しております。
0:23:01	続いてNo.16 の修正事項ですが、こちらの前回ヒアリング資料から資料全体をもう一度見直しまして、
0:23:10	足りないと思われる部分を必要に応じて追加しております。
0:23:16	例えば、例えばということで修正リストにも記載しておりますけども、プレート間地震の強震動生成域の応力降下量について、
0:23:23	あらかじめ不確かさを考慮しておりますがそれに関する資料が前回資料ではなかったために追加をしております。
0:23:41	ちょっと最後ですけどもオオノ一般的に
0:23:44	18 の修正事項ですけども、先行サイトの診察で審査のほうを踏まえまして、
0:23:50	資料中にある考えられるという記載につきまして確認して、必要に応じて評価下であったりとか、分析した判断をしたと。
0:23:59	いった記載に記載を適正化しております。
0:24:03	すいません説明は以上になります。
0:24:10	規制庁サグチですけどもご説明ありがとうございました。ちょっとまず私のほうから幾つか確認をさせていただきたいんですけども、私のほうでも当然事前にこれ、資料提出いただいたので、
0:24:25	いろいろ確認をして、前回のヒアリングのときにちょっと量が多いというのもあって、全部こう、

0:24:35	前々回のヒアリングで確認し切れなかった部分も含めて、
0:24:39	特に補足説明資料のところを中心になるかと思いますが確認をさせていただきたいと思いますが、まずはですね、資料構成として、今回堅調な地震動の顕著な
0:24:56	増幅を考慮する地震の評価のコメント回答ということと、あと、敷地ごとに震源を特定して策定する地震動というものをまとめAですねこれは族も含めてなんですけど、構成にさせていただいてますありがとうございました。
0:25:12	ちょっと同じような観点で、実は
0:25:18	これ前回から今回で追加されたということで、
0:25:24	今日ちょっと御説明あったんですけど、前回のヒアリング資料からの修正箇所っていうので一覧表で、まずこれはご提出いただいたとかまとめていただいて、これに従って私も確認させていただきましたので、
0:25:40	記載の適正化等々に関しては、非常によくチェックされていて、定期性化されているなということは確認できましたけれども、最初のこの一覧表のコメント。
0:25:56	コメントじゃないか、これは修正箇所、
0:25:59	のナンバーで言うと、17番になってそれが今回新たに追加という部分も含めて御説明いただいたと思うんですけど、この今日御説明いただいた補足の④の
0:26:15	大きく3点。
0:26:18	437ページとか438ページ後は292ページの304ページとあるんですけど、
0:26:27	今日の御説明では、現時点でのそのレベル間の確認というような御説明があったんですけど。
0:26:34	この位置付けについてちょっと、もう少し
0:26:38	その考え方を
0:26:41	確認させていただきたいんですけど、というのは、
0:26:45	当然今まではそのコメントとか踏まえた形で
0:26:52	例えば、437ページですね。
0:26:56	補足資料の④。
0:27:00	というのは、これは基準地震動策定の際に、説明をいただくという形で資料としてはたんですけど、確かにですね今の現時点でのレベル感とおっしゃいましたけど、一応これ、
0:27:15	地震動評価としてはすべて今出揃ったわけなんですけど、という私は少なくともそういう理解をしているんですけど、もしですね、御社が

0:27:27	このタイミングで実は基準地震動のところの説明して、今説明しますという先送りになっていた部分でもし回答できるのであれば、実は私はこのタイミングで全然回答していただいても構わないと思っているんですけど。
0:27:45	ただしその場合はですね、今のその補足説明資料の中に入れ込む形ではなくてですね。
0:27:54	やっぱりそれは外に出していただいて、ちょっとその評定表題というタイトルがどういう形になるかわからないんですけどこれ敷地ごとに震源を特定して策定する地震動としての
0:28:06	コメント回答。
0:28:08	という位置付けにもなるかもしれないんですけども細かいこと言うと、各そのプレート間地震だったりする
0:28:16	海洋プレート内地震であったりとかっていう
0:28:20	ところのコメント回答という形にもなるかもしれないんですけど。
0:28:25	いずれにしても、ちょっとそこは、
0:28:28	まず、もしこのタイミングで回答。
0:28:32	できるし、市したいというご希望であれば、ちゃんとこれ外に出していただいて、人まとめて
0:28:43	資料としては、構成をしていただきたいんですけど、その辺りって。
0:28:49	どうお考えなのかなっていうのはまだまだ今今の段階ではそこそこをコメント回答という形でするわけではなくてあくまでもこれは基準地震動のこの後の先のまだ当然特定せずというものも当然あると思いますし、
0:29:07	ちょっとその辺りまず教えていただけますでしょうか。
0:29:14	中部電力のイワセです。
0:29:18	今回追加してSsの策定のときに確認と、当社が説明したケースを前回ヒアリングの際に、
0:29:31	皆様から今の特定するほうのまとめとして、
0:29:36	できることはしっかりやっておいたほうが良いというような趣旨のコメントいただいた我々受けとめまして、もう1回精査したところ、こういったケースについてもちょっと少なくともSsまで待つよりも地震動のレベル感としては少なくとも示して、
0:29:54	皆さん認識いただいたほうが良いだろうという趣旨でまず今回資料に入れております。ただし、これはなかなか審査の進め方に関わる場所もあると思っております。我々でちょっと判断し切れなかったんですけども、
0:30:10	どうしてもSsの策定のときに、

0:30:13	Ssの最終的なSsDだとか、公営性になるかというレベル感も含めて、最終的な確認になってしまうものも当然ありますので、そういった中でも、先ほどサグチさんが言われた中で、
0:30:28	今確認し、実際、我々ちょっと今回やってみたんですけど、基本的には確認できると思ってますので、そういったものはできれば説明させていただいたほうが全体を進めるのでは、我々としてはいいと考えているんですけども、
0:30:44	そういった形はAよろしいですかねちょっとSsの策定との関係で我々少し迷ってるんですけども、
0:30:51	はい。規制庁サグチです。もちろんそれを説明したいという話であれば当然それは御社が我々が
0:31:01	これはもうむしろとかそういう当然指示をするわけではなくて、御社が説明したいというのであれば当然、説明をしていただければいいと思ってますけど、ただし、それはやはり私が言ったように、
0:31:16	今回のこのタイミングでコメント回答するのであれば、やっぱり今の形の補足指令あの補足資料の中に入れ込んで説明するのではなくてちょっとやっぱり外に出した形で御説明はいただきたいと思って。
0:31:32	で、あくまでもこれは
0:31:35	私の個人的なちょっと意見になるんですけども、少なくとも、ちょっと先ほども申し上げましたけれども、
0:31:43	地震動のデータというか、結果評価結果というのは、
0:31:49	今は全部出揃ったと私は少なくとも理解をしていますので、それを踏まえて、もし回答が、
0:31:58	このタイミングでできるものであれば、それは回答していただいても私は個人的には構わないと思ってますけど、だから後は、御社がどういう形で説明されたいか。
0:32:11	っていう、そこだけだと思いますけど。
0:32:15	中部電力のイワセです。承知しました我々は我々としても、やはりできることは今説明させていただいて、早め早めに確認いただいたほうが全体として当然いいと思ってますので、基本的に入れる方向で検討します。
0:32:30	入れるんですけども今、今ちょっと思いつきではあるんですけども、ちょっと別資料っていうのがパッとイメージがつかなくてですねこのまとめ資料の中に地震動評価結果に連続して入れるだとか何かそういった工夫っていうのはまだ
0:32:50	ちょっと見せてからじゃないと判断できないかもしれないんですけどそういったやり方っていうのはあってよろしいんでしょうか。

0:32:59	はい、サグチですけれども、そういうやり方ももちろんありだとは思いますが、別資料にするかしないかは別としてですね。いずれにしても、コメント回答というのか、まだちょっとその積み残しのところで、
0:33:16	該当するっていうのであれば、
0:33:18	ちょっと繰り返しになりますけど、補足説明資料の中で下位会等っていうのか、回答にもなってないと思うんですけど、
0:33:28	さらっとここ載せておくだけではなくてですね、一応そこはきちんとした形で、
0:33:34	提出して説明いただく。
0:33:37	いう形が一番いいと思いますんで、特定して策定する地震動の中に入れ込むのか、別立てにするのかっていうと、
0:33:47	うん。そこはちょっと、もちろんそれは御社の判断にお任せしますが、それはやっぱり本編とはちょっと何というんですかね。
0:33:57	やっぱりこれがその補足資料と本編と合わせてやっぱり
0:34:01	ちょっと前々回でも申し上げましたけど、言ってみればこれがまとめ資料的なものになるわけなんべでそういう資料に何かそういう
0:34:11	コメント回答も一部だったり、
0:34:14	あと、これはちょっと
0:34:18	後程申し上げますけど、
0:34:20	あんまり関係ないような資料が入っているのはいかがなものかなと私は個人的には思いますけども、
0:34:29	中部電力のイワセの基本的に我々のほうで検討させていただきますが、ちょっと申し訳ありませんもう1点だけ、今コメント回答、やはり最後のまとめは分けるべきだというアドバイスをいただいたと、それはその通りだと思いますので、
0:34:47	そうさせていただきますが、今会を堅調な増幅を考慮する地震動の単独でコメント回答にしておりますけれども、コメント回答で1本資料でまとめの資料として1本というようなやり方っていうのは、そういった形っていうのは違和感ないでしょうか。
0:35:07	iサグチです。特に違和感があるかないかっていう話であれば違和感があるとは思ってませんが、当然それは冒頭にですね、こういうのも敷地ごとに指揮、
0:35:22	震源を特定して策定する地震動を取りまとめるにあたって、以前合格タイプの地震動評価のときにもコメントいただいていますので、それもあわせて回答させていただくというような御説明があれば、特に違和感はないかな。
0:35:40	私表題をどうするかとかそういうところについてはちょっと考えていただきたいとは思いますが、

0:35:50	中部電力のイワセですありがとうございます検討させていただきます。
0:35:57	はい、規制庁サグチですので、今ちょっと
0:36:01	別資料にするかしないかは別としてやっぱりちょっと関連したコメントなんですけど、やっぱり違和感があるって申し上げたのは、
0:36:12	前回のヒアリングで御説明いただいた
0:36:16	なんて言うんですかね、誤りの部分ですね、これ資料を補足説明資料の
0:36:23	①とか、あとある。
0:36:27	3でしたっけ、の部分でいくつか誤りがあったんですけどこれも、
0:36:32	なんかやっぱりまとめ資料 2、補足説明資料とは言えそういう。
0:36:37	何か誤りがありましたというような資料が、
0:36:40	やっぱりあるのは私はすごく違和感があるので、これも、
0:36:45	何か
0:36:46	資料を別立てするなりしてご説明をいただきたいとは思いますが。
0:36:53	そのあたりってどう考えでしょうか。
0:36:59	中部電力のイワセです。ご指摘の通りだと思いますので、それについても検討させていただいてちゃんと資料を 2E構成をもう一度検討し直したいと思いません。
0:37:12	やはりサグチです。その点はよろしく願いいたします。あとちょっと今回変更丁寧しません私の全開の確認の仕方があまりよくなかったかもしれないんですけどちょっと変更点の
0:37:28	No.の
0:37:30	13 番ですね、フレネルゾーンの話なんですけど、これ。
0:37:35	実際、今回、
0:37:37	全然削除されている。
0:37:40	と思うんですけど、
0:37:42	確かに評価結果としては、影響はなかったっていうのはもちろんその我々も理解してますし、ただし、その評価結果に影響がないという、ちゃんと確認をしていますよという御社の実績。
0:37:58	っていうんですかね。そういったものまでも今回削除されちゃってですね、その本編で紐づけてっていうのは別に私個人としては要らないかなと思うんですけど。
0:38:11	補足のところで検討したよという実績もばっさり落とされているっていうのは何かあっていうがあるんですかね。
0:38:25	はい。
0:38:26	中部電力のイワセです。基本的には

0:38:31	当然実績としては審査
0:38:34	これまでの資料に当然残っているものだと思ってましたので、単純に削除しただけで特に室別の意図があったわけではなくてですね、ないほうがいいのかもしいというアドバイスをそのまま素直に聞いてしまっただけです、
0:38:51	補足資料のほうには、もう一度きちっと入れるようにしたいと思います。
0:38:57	はい。規制庁サグチです。あくまでもやっぱりこれは御社の検討実績の一つです、そこは
0:39:05	影響はなかったんだけど、その影響がないということを確認するということもやっぱり重要な点ですので、できるだけですね、そういった点については残していただきたいと思いますので、よろしくお願ひしたい
0:39:18	で、あと、ごめんなさい、やっぱり補足説明資料で幾つか
0:39:23	確認をさせていただきたいんですけど、前回、私確認させていただいて、今回ですね、
0:39:32	不確かさの応力降下量とか短周期レベルって言われているところの不確かさの、まああの実際どういうふうに計算してるんですかっていうので。これ追加をしていった場合、言ったのが、補足の
0:39:45	④の
0:39:48	117 ページ以降の
0:39:52	だと思います。思うんですけど、例えば先行サイト、特にちょっと資金の話だと、例えば島根とかでも追加していただいて、もう少しですね、
0:40:06	18 ページ、118 ページと 119 ページの間に実際にこういうふうな計算をしますよというような資料が当然載っていて、何か確認したいかっていうと、
0:40:21	結果的に 119 ページにあるように、短周期レベルっていうのが 1.5 倍になっているのはもう確認できてるんですけどその過程をもうちょっと
0:40:37	118 ページで、
0:40:40	例えば応力降下量及び滑り量の補整で
0:40:45	書かれてるんですけど、この補正はじゃあどういう形で例えば補正をされているのかとか、もうちょっとですね、詳しいの資料があるのであれば、この間を埋めていただいて追加をしていただきたいというのとで、
0:41:00	実際の計算は補正をしているということなんですけど
0:41:05	例えば応力降下量 1.5 倍という数値が当然あるわけで、で短周期レベルも 1.5 倍という数値が当然あるわけなんですけど、この二つの数字を
0:41:20	直接使って計算をされているのか。
0:41:25	そうではなくって結果的に、

0:41:28	119 ページのような短周期の地震動モデルですね、これが 1.5 倍になるように、
0:41:36	計算をされているのか、ちょっとそのあたり、まずどちらが
0:41:41	御社としてはその計算方法としてとられているのか教えてください。
0:41:51	中部電力のイワセですね、ちょっと説明は難しい点はあるんですけども、
0:41:58	基本的には
0:42:01	ここの応力降下量の 1.5 倍っていうのは、短周期レベルが 1.5 倍小屋の震源スペクトル部分の 3 周期レベルが 1.5 倍になるように剛性をしなきゃいけないという知見だと思ってますので、
0:42:16	そうなるように、グリーン関数の推量と先ほど言った、その辺の補正と合成をやっていると、で、応力降下量 1.5 倍と言ってますが、実際には応力降下量 1.5 倍から算出される短周期レベルをターゲットにして、
0:42:34	そこが 1.5 倍になるように、合成をすると、そうすると震源スペクトルとしてはシンプルなものであればこう 199 ページで出させていったような形で、当然途中少しでこぼこするところは、
0:42:50	ハケ剛性ですのでありますけれども、今震源スペクトルの影響度としては 1.5 倍になるということで、ちょっと
0:43:01	大ざっぱにやるような場合には、もう単純にはけ自体を 1.5 倍にするような方もおられるようですけども、我々としてはちゃんと剛性のところで、震源スペクトルの影響がちゃんと 1.5 円になるように合成しているやり方と、
0:43:17	ということですのでちょっとその辺りも含めて少し補足説明は追加させていただければと思います。
0:43:25	はい。規制庁サグチです。その資金の例として島根というのを挙げましたけども、島根は基本的に関西電力とかがやってるような同じ方法でやっていて、それを
0:43:41	資料としても、当然入れていただいている部分があるので、その滑り量とかの補正をどういうふうにされているかっていう、
0:43:50	そんなに
0:43:51	簡単に説明できる。
0:43:54	ものではないかもしれないんですけど、説明できるのであれば、ちょっとどういうふうに実際の計算はしているかっていうのは、確認させていただきたいと思いますので、そこはよろしく願いいたします。
0:44:09	すいません一端を正しい一旦と言いながら終わりかもしれないですけど、以上です。
0:44:17	。

0:44:58	規制庁サグチです。すいません一旦と言いながら、またちょっと引き続きじゃないんですけど、今日ゴソッご説明いただいたところで、ちょっと確認というのか、
0:45:11	ちょっと細かいところがよくわからなかったので教えていただきたいんですけど。
0:45:16	補足の④の
0:45:22	これ 400、
0:45:26	37 ページ目。
0:45:28	以降の話ですね、これ多分
0:45:31	今後ちょっと外にG出して設定御説明いただけるという、先ほどお話だったと思うんですけど。
0:45:40	この 438 ページの
0:45:45	プレート間地震の検討用地震、
0:45:50	と比較をしたと書かれているんですけど、これ具体的に言うと、
0:45:57	何のをおっしゃっているのかって言う単純な
0:46:04	確認なんですけども、判例ではこれグレーですよ、グレーのライン抵抗いっぱいあるんですけど、これは、
0:46:12	例えば、プレート間地震っていてもいろんなケースがあって、検討用地震って書かれると何かこう、基本ケースだけなのかなと思ってしまいうんですけどもそそうでもなくて何かこれ多分、いわゆる不確かさ、
0:46:28	ケースとかも全部これ書かれているような
0:46:31	感じに見受けられるんですけど、この検討用地震っていうのを何か、何を指しているのかというのをちょっと教えてください。
0:46:39	知念力のイシカワです。
0:46:41	おっしゃる通りですねプレート間地震の基本震源モデルだけではなくて、不確かさも含めたすべてのケースの評価結果との比較を
0:46:51	しております。
0:46:53	なので、本資料でいきますと 225 ページ。
0:46:59	にすべての欠陥載せてますけども、これをすべて廃炉にして比較を行ったと。
0:47:06	いうものがこちらになっております。
0:47:11	ちょっと検討地震のっていう書き方が良くないかと思えますんでペーパーレスの各震源モデルの評価結果とか、そういったちょっと記載を改めたいと思います。
0:47:21	以上です。
0:47:22	はい。規制庁サグチです。

0:47:25	御説明ありがとうございました。わかりました。なのでこれ基本的にはこのプレート間地震のすべての結果ということ載せているということだったんですけど、さらにちょっと確認をさせていただきたいんですけど、一方でこの御前崎沖の想定沈み込む海洋プレート内地震の
0:47:42	結果って、これは、
0:47:45	いわゆるその基本ケースという。
0:47:48	ことでよろしいんですか。
0:47:54	住民力のインカワです。その通りです。
0:47:58	435 ページに設定しておりますモデル、
0:48:03	以前示しております、これの震源モデルのケースだけを計算している形になります。
0:48:11	規制庁サグチです。わかりました。ちなみにさらにちなみになんですけど、
0:48:17	ちょっとその御社の考え方として教えていただきたいのは、これ今、黒の実線ってというのは、例えばですよ。例えばこのグレーの実線のどれか例えば 1 本に完全に包絡されているとか、
0:48:32	そうじゃないとか、また分枝上の方見ていけば完全崩落、
0:48:36	されているのかなというところはあるんですけど。
0:48:40	そのあたり、実際どうなのかっていうのは、ちょっと教えてもらっていいですか。
0:48:47	中部電力のインカワですので、具体的に確認をしておりますけれども、
0:48:51	基本的に
0:48:54	連動したケースとか、そういったものをレベルが非常に大きくなりますので、
0:49:00	もうその 0 に基本的には包絡されているかに包絡されているとは思いますが。
0:49:08	はいサグチですんで時思いますというか、それから確認自体はまだされていないという理解でよろしいですね。
0:49:16	そうですね、何か確認をしておりますが、
0:49:19	見たほうがある程度ロック。
0:49:47	はい。
0:49:48	このNSEWDの包絡Kに包絡されていることを確認しておりますけれどもどれか一つのケースのNSEW、UDIに包絡されているかということを確認できておりませんのでそちらのほうは確認するようにいたします。
0:50:02	はい、佐口です。その点をお願いいたしますので、それは実は同じような
0:50:09	報告をとって、
0:50:11	地震動の個目今回のコメント回答資料として、
0:50:19	50

0:50:21	50 ページ目以降とかですかね。確認をされているんですけど、この 53 ページでも同じようなことが、
0:50:32	ちょっと
0:50:34	確認させていただきたくて、
0:50:37	これはあくまでも今書かれているのは、すべてのほかの地震動評価の崩落したスペクトルというのを下回っているのか上回っているのかなっていう
0:50:53	判断をされているんですけど、例えば、53 ページで、これ多分見数もともと影響が大きそうだというのがあるって、そこから二つに絞られたところなんですけど、この
0:51:08	一つ落とした
0:51:10	ものっていうのは同じように、例えばどれか。
0:51:15	一つの
0:51:16	評価結果に完全に包絡をされているのか、そうではなくてあくまでもを全部を包絡したスペクトル別紙か下回っていないのかっていう
0:51:29	確認はされてるんでしょうか。
0:51:34	中部電力の石川です。そちらもですね、今回確認はできておりませんが、
0:51:41	おそらくどれかに包絡されていると思いますので、そちらもちょっと確認させていただきます。
0:51:46	はい蘇武です。すみませんじゃそれ確認は洋酒お願いします。
0:51:52	すみません、また一旦、私はここで、以上です。
0:51:58	すみません中部電力の伊ワセサグチと今ご指摘いただいた確認はさせていただきますが、ちょっとどういった観点で、その確認をする。
0:52:10	ことが望ましいと考えているのかが考え方教えていただけると、ちょっと
0:52:19	そういう観点で確認すればいいか我々が少し作業がしやすいんですけども、もし何かお考えがあるようでしたら教えていただけないでしょうか。
0:52:28	はいサービス逆に私が本当は実はそれを教えていただきたかったんですけど、なぜ包絡スペクトルというもので
0:52:38	比較をされているのかですね。というのは当然
0:52:44	これ来規則ですが、規則とかガイドとかでもあん当然基準地震動策定する時に
0:52:53	例えば応答スペクトル法と断層モデル法って当然あるんですけど、応答スペクトル法によるものがですね、断層モデルを用いた手法を
0:53:06	例えば完全に包絡している場合は、この応答スペクトル法による評価でも 2 で代表できるというようなところがあると思うんですけど、今は、
0:53:19	応答スペクトル法も断層モデル。

0:53:22	ほう見よるものも全部、要は、
0:53:25	一緒にした形で比較をされていて、
0:53:29	で、
0:53:30	その辺りの考え方ですよね。おそらくこれ、
0:53:36	何というんですかね、設備とかそういった耐震のほうで考えれば、
0:53:43	主要な周期体も含めて、どれかの地震で地震というのは基準地震動ですけど。
0:53:53	周期体っていうのが賄われていればOKなのか、それとも、
0:54:01	どれがいっぱいは当然やっていくので、やっぱり
0:54:08	どれか一般に完全に包絡されていれば、それは、
0:54:12	当然その包絡している側で代表はできるよねって話になりますけど。
0:54:18	で包絡されていなくても、全部のSsに包絡されていれば、
0:54:24	いいんだという
0:54:26	そういうお考えなのかっていう、逆に私が実はお聞きしたかった点なんですけど、その辺り一定等を考えましょうか。
0:54:37	中部電力のイワセですありがとうございますどうぞございましたどんな点に問題意識があるのかということとはよく理解できました。我々としては、今考えているのは例えば検討用地震の選定
0:54:52	のようなときには当然サグチさんが言われているように、一波同士比較したとか例えばモデル同士で必ずこちらのモデルのほうが影響検討として、
0:55:06	選んでおけばもう片方は基本大丈夫だろうというようなものの差が必要だということで、そういった観点のときには今ご指摘いただいたような比較が必要と思います。一方で、今やっているのはもう地震の評価は全部終わって、
0:55:23	全部いろんなケースをやって沢山積み上げてきた地震動の中で、施設への評価用の地震動としてどれにするかというのがSsの策定のときに選ぶものだと思っておりますので、そういった観点ではいっばいずつ比較して、
0:55:39	一体ずつか全体的に日比較をして、どこかの周期がほかの地震はで包絡されている。これは当然SsDもデザインも含むんですけども、そういったところのものについては、施設評価としては別なもので代表できるだろうと。
0:55:57	いう形で、そこは分けておまして、今回基本的には
0:56:02	Ssの個別範囲になるものを選ぶという、
0:56:07	になりうるんじゃないかという観点での検討だと思っておりましたので、ちょっと包絡派という形で、これ作業上の観点で入れただけなんですけれども、本当はわかりやすさを追求しているだけの本当はこれ全部の重ね書きの声すごくわかりにくくなっちゃうんですけど。

0:56:23	重ね書きの中で検討して選定するものだと、そういうような整理で考えております。ちょっと今考えて説明したので拙いかもしれませんが、このような形で考えています。
0:56:36	はい、サグチです。そういうそういうとも含めてですね、ちょっと確認だけはしていただきたいっていうのと、それから皆さんが追加確認ですけどもちろんその他の
0:56:50	どれくらいやっぱ以降完全に包絡されるものとかっていう話もありますし、純粹にですね。
0:56:58	御社の考えとして、基準地震動を策定するときに、
0:57:05	設計を応答スペクトルを
0:57:09	ちょっとでも一部の周期で超えれば、それはSsに選定するものなのかどうかっていうそのあたりの何というんですかね、考え方というか定義っていうのが、
0:57:24	もしあれば、
0:57:26	だからさ、先ほどもなぜちょっと私がこだわってるかっていうのもあるんですけど、SsDB超えて少しでも超えたとしても、ほかの波に完全に包絡されてれば、オッケーですよとかそういう考え方も例えばあたりはすると思うんです。
0:57:43	けど、そのあたりをどういう形で御社がSSを選定とか策定するのかという考え方ですね、ちょっとそこもし今の段階でお答えできるんだったら教えていただきたいんですけど。
0:58:02	中部電力のイワセです。ほぼいただいたように近いんですけども、選定の考え方としてはシンプルに言いますと、まずSsのデザインが応答スペクトルを設定をするの設定をしたものに対して、断層モデル法全部比較をして、
0:58:21	まず第1的に的にはどこかの周期体で一部でも超えているもの、これが第1候補という形になるんですけども、数が多いということもあるんですけども、そういった中でもDは超えているんだけれども、ほかの
0:58:38	断層モデルはその周期がカバーできているものにはもうSs個別はとは選ばずに、それは最終的に個別はからは外すという形でSsは決定しています。
0:58:53	ちょっとこういう形でやってるんですけども、
0:58:57	今の特定震源のまとめの中で、
0:59:00	し説明するところはどういうふうな受けとめたらいいか、当然説明をもう考え方はっきりしておりますので、ちょっと1説明してしまってもいいものかどうかというところが、我々としては困る。悩むところですのでその辺、
0:59:15	もし説明したほうがいいということであれば、当然資料の中にも記載したいと思うんですけども、いかがでしょうか。
0:59:22	はい作成、まさに、その部分だと私は実は思っていて、逆に言うと、
0:59:30	特定

0:59:32	という話ですので、
0:59:37	ただし、結局このSsDっていうのを特定して特定せずという部分の上で考えること特定してないですよ。だからそういう意味で遠くて指定として、策定というか評価した地震動の中で、
0:59:56	比較検討した結果が、この53ページなりっていうことなると思うんですけど、だから、あんまりその基準地震動という考え方は別にここは特になくてもいいんじゃないかなとあくまでも純粋に特定して、
1:00:14	という地震動の評価結果としてはこうですよと申請時のSs
1:00:22	Dというものも入れていますが結局それも特定してですよっていう
1:00:29	だから、そこは何かうまく説明すればいいだけかなっていうので、あくまでも
1:00:37	基準地震動の選定で私がお聞きしたのは別に、特に何か今ここで説明しろというわけじゃなくて今後も含めてちょっと同様考え方なのかなというので、ちょっとあの確認だけさせていただきたいなっていう、そういう位置付けですのでよろしくをお願いします。
1:00:55	中部電力の伊ワセと称しました上がりありがとうございます。
1:01:16	規制庁の伊藤ですけど、ちょっと細かい点なんだけど、これで当敷地ごとに震源を特定し策定する地震動についてということで、これもまとめ資料にそのまま持ってきていうイメージでつくられている。
1:01:30	ですか。
1:01:31	再確認なんですけど。
1:01:35	中部電力の伊ワセです。おまとめ資料でそのままいってもいい覚悟では作っています。ただちょっと、実際やってみて物量とかも含めて、本当にSsのまとめのときに、どういう整理がいいのかはもうワンスルー検討が必要だと思っ
1:01:54	といたしますのでちょっとその辺は
1:01:57	そのときまた改めて検討させていただければと思っています。
1:02:03	既設ナイトウすごわかりますとっていうちょっと情報とね。
1:02:09	5e等、
1:02:11	持ってってもいいという前提で言うのであればね、解放基盤表面の設定ということで96ページでねVs700の話しか書いてないんですよ。
1:02:26	解放基盤表面ってVs700以上の
1:02:30	D風化飲んのないところの一定の広がりがあるところを解放基盤
1:02:38	として設定するってなってるんですけども、
1:02:42	今の説明だと700億を超えてますだけなので、解放基盤表面の設定として妥当なのかって全部敷地ってないんですけども、

1:02:59	中部電力の成田でございますと96ページ目だと今おっしゃる通り、解放基盤に県の記載が足りてないので、ちょっとこれも過去の資料をちょっと一部抜粋してきているというところもあるので、しっかりその辺も含めて修正させていただきたいと思います基本的にはこちらの
1:03:15	PS検討データ自体がですね、3号機4号機、5号機のそれぞれの早速とびあ速度を示しております、Vs700に相当するところで、ほとんど差がないということがイコール面的広がりを持っているって証拠になりますので、その辺りこの結果をもってしっかり記載に反映したいと思います。
1:03:39	規制庁ナイトウですね、豊島のときもちょっと整理上どうしようかっていうところもあったんですけど、まず解放基盤の条件としての部分で風化のないところで、
1:03:53	速度層が速度が700mのミスト100を超えているところが一定の広がりがあるのでここ解放基盤表面に設定をした上で、そのところで方位別とか増幅特性とかを検討した結果として、
1:04:10	特異なものがない。
1:04:13	氏名のないんだけど、ないのでここで問題が解放基盤表面としては、一定の広がりがあるとして考えていいという整理にしているんですよって一方で先行である増幅などは柏崎なんか、
1:04:27	に近い、近いというか考え方の整理はサーマルバリアそうなんだけど、そういう一定の広がりが増幅領域タブ箇所づけの考え方は増幅領域は増幅領域と知識として反映させることによってちゃんと増幅よい。
1:04:43	増幅が発火適切に反映できるので。
1:04:46	解放基盤表面としては、一定の広がりがあるとして設定していいんだと次元で設定していいんだっていう整理をまとめて。
1:04:57	書いているんですよねという、多分、
1:05:00	ファーマ壁そっちに近いと思うんだけど。
1:05:03	解放基盤表面を設定してで増幅があるので、調査の結果増幅があるので増幅を反映しますという
1:05:13	形で今終わっちゃって。
1:05:15	ているんですね。増幅を反映することによって次元でできるから、この解放基盤でAと地震の評価が適切にできるんですっていうのが、御社の主張
1:05:26	のはずなので、そこもちょっとひと工夫していただきたいんですけども、
1:05:33	ご指摘中部電力ナリタと御指摘ありがとうございます。96ページ目に先ほど申し上げたの面的に広く記載させていただいて、97ページ目の解放基盤表面でしっかりその増幅特性範囲できてますよってとこまでは書いてあるんですけど、この地点でしっかり解放基盤表面として地震動を定義できると。

1:05:50	いう話もしっかり書き込んで
1:05:52	工夫ちゃいと思います。ありがとうございます。
1:05:59	はい。解放基盤表面の設定の話別途まとめて起こすっていうんだったら話違うんだけど多分構成からいってここに書くしかないんだと思うので、そこはちょっとまとめにもきちんと持ってっ系るということを念頭にちょっと資料と整理をお願いします。
1:06:36	はい。規制庁サグチですけども、私もちょっと細かい点で
1:06:43	確認というのがこれもちょっとお願いっていう話になってしまうかもしれないんですけど、今日
1:06:49	不確かさですね応力降下量とか短周期レベルの不確かさの確認をさせていただいて、また資料できるだけ充実させさせていただけるということだったんですけど、
1:07:05	これはあくまでもなんていうんですかね、言葉だけの話かもしれないんですけど、今日伺った感じでは、その短周期レベルとか応力降下量を完全に1、
1:07:20	.5倍した値で計算を、
1:07:25	した。
1:07:26	純粋な結果ではなくて、結果として短周期の地震動レベルが1.5倍になるように計算をされているという御説明だったと思うんですけど、そうすると、
1:07:41	すいません、細かい話になるんですけど、各不確かさの
1:07:47	ケース名ですね。
1:07:48	これが、
1:07:50	応力降下量、括弧短周期レベル1.5倍。
1:07:54	ていうのと、
1:07:56	ちょっと実際にやられているのが違うかなっていうのがあって、最近、特に
1:08:03	周りも含めて、この辺り結構敏感になっていてですね。
1:08:08	例えば、先行サイトの
1:08:12	島根とか、
1:08:15	それから関西電力だったりっていうのが、
1:08:18	これ地震動の短周期レベルだったかな、短周期の地震動レベルかな。
1:08:25	1.5倍のケース、
1:08:27	ていようなケース名だったり、あと、
1:08:31	各パラメーター表も、
1:08:33	数値としては例えば短周期レベル1.5倍のところでは1.5倍した数字を出していたりするんですけど、それはあくまでも

1:08:44	参考値というような形で、実際にはその数字そのものを用いて計算しているわけではないんですよというのが、
1:08:52	わかるような形で、逆に言うと、結果として 1.5 倍にはなっていますということがわかるようなそんな
1:09:00	ちょっと記載が、
1:09:02	今されているところなので、ちょっとその辺りですね、実際の
1:09:08	どうしているかというのと、ちゃんとこう整合するような形で、
1:09:15	ケース名だったり、パラメーター表ですね。
1:09:19	このところはちょっと適正化をしていただきたいんですけども、もちろん今の書き方っていうのが本当にそのまま計算としてしているんですけどという説明であればこのままでももちろん構わない。
1:09:35	けど、そこはちょっと確認の上ですね、ちょっと適正化の必要があれば、適正化をしていただきたいんですけど。
1:09:45	中部電力のイワセです。検討させていただいてケース名称がより適切なものを
1:09:53	があるのであれば当然への変更するとかあの全体を整理させていただこうと思います。ただちょっと移転私の説明が悪くて、若干誤解を与えてしまったんだとは思いますが、私が説明させていただいたのは、
1:10:08	応力降下量の 1.5 倍と短周期レベルの 1.5 倍の話は、断層モデル法の計算上同じことを言ってるんですよということを言いたくてちょっと説明したつもりで、
1:10:20	今の断層をもうちょっと販経験的な家計合成法そのものが震源のターゲットスベクトルがどう動くかっていうのを決めて、それに合うように、家計剛性数を決めるという。
1:10:35	形をとっていますので、その発生上げ剛性数を決めて計算するところの関係を私がちょっと補正をすとか何とかいろいろ説明してしまったので基本的には別に入力d書いてるのが結果で書いてるのかということではなくて基本当然入力値を書いているんです。
1:10:55	けれども、アウトプットの
1:10:57	ところがちゃんと短周期レベルが 1.5 倍になるように、ハケ合成をしているという、ちょっとわかりにくくても、難しいんですけども、ちょっとその辺はご理解いただきたいなというのと、あとこれ、チェックをしてみたんですけども、各社さん書き方やっぱ
1:11:15	バラバラで、アスペリティの応力降下量もしくは強震動生成域の応力降下量を 1.5 倍にするっていうことは、結局強震動生成域とかアスペリティから出る短周期レベルば 1.5 倍になるように、当然計算皆さんされてますので、

1:11:33	計算結果としては、本当は短周期レベル 1.5 倍になってるんですけども、計算の／例えばレシピに従って設定するときには、最初に檀さんの式とかで短周期レベルを 1 回出しますので、
1:11:50	その出したものと、応力降下量 1.5 倍に出したときに計算される短周期レベルの書き方の点についてはちょっと正直我々も迷ってまして、そこも含めて今回コメントを受けて整理をさせていただきたいと思います。
1:12:06	はい、サグチです。で多分いろいろあるっておっしゃったのはそれはもちろんその記憶の方も含めて、
1:12:13	の部分だと思いますけど、特にここ
1:12:17	数ヶ月ぐらい。
1:12:19	なんですけど非常にこの書き方がすごく敏感になっているというのもあって、もちろん
1:12:27	実際に計算に用いてる値であれば早晩当然書いていただいて構いませんし。ただし、その短周期レベル 1.5 倍とか言いながら、その短周期レベル、
1:12:38	の値って多分計算値が実際使わなくておる降下量のほうで、
1:12:42	こう使うと思うんですけど、そういう意味で計算としての数値をどういうふうな形で、
1:12:50	出しているのか、また当然そのレシピに示されているような、あくまでも経営者計算上の値はこうなんだけどっていうそこをですね、ちょっとわかるような形で、少なくとも示していただければと思うので、
1:13:06	そこは、
1:13:07	もちろん書き方については少しお任せしますが、検討だけはよろしく願います。
1:13:15	中部電力のイワセです問題意識については理解しましたので、検討させていただきます。
1:13:31	規制庁ナイトウです。ネット
1:13:34	特定
1:13:37	指定は今回の資料でまとめていただいて、これで会合で議論した上でどうするかって話にはなるんですけども、一方で、特定せず、標準応答スペクトル、
1:13:51	グリーン基づいて設定をする特定しては、
1:13:57	浜岡は、
1:13:59	どうされるんですかっていうのは、
1:14:01	今の審査の中でやるのであれば、9ヶ月以内に補正を出して審査に反映して審査の中で見ますという話。
1:14:12	なのか。

1:14:15	9ヶ月以内に終わらせられているということに
1:14:22	あってから、
1:14:24	失礼します。
1:14:25	なのか。
1:14:26	今、今どっちっていうか前者ですよね当然。
1:14:32	中部電力のイワセです。当然補正を考えていまして今鋭意準備中ですけども、
1:14:40	当然特定震源今整理させていただいていますので、その次ぶれることなく、ちゃんと補正ができるように今準備を進めているところです。
1:14:53	規制庁ますりレーそこのところでちょっと気になっているのは、
1:14:59	地盤モデル、
1:15:03	どうされる予定ですかって聞きたいんだけど、今出している個々の
1:15:08	地盤モデル、
1:15:10	で、
1:15:11	やられるのか、また変えられるのかによってこっちの特定するのはね返りも考えなきゃいけないんですけども、今、どういう形で進めようとしておられます。
1:15:27	中部電力のイワセです特定せずの標準応答スペクトルに用いる地盤モデルですけども大深度地震観測の観測記録も踏まえて、観測記録を重視した地盤モデルを作らさしていただいてそれに基づいて伝達関数を評価をして反映するという形にそちらは。
1:15:46	させていただくことを考えてます。一方で今断層モデル法で計算するで使っている地盤モデルについては、観測記録に基づいて確認をしていますけれども、基本的にはPSA検層の結果だとか調査結果の値とか、あと減衰をすごく保守
1:16:06	的な対応をそのまま用いているもので、かつ、今回の資料にも入っていますけれども、そういったもので十分保守的な評価ができることを駿河湾地震の再現モデルの評価とかそういうのも説明していますので、こちらについては、
1:16:22	保守的な評価ができるということで変えないという説明をさせていただこうと考えてます。今我々が用意しようとしているのはそういった検討です。
1:16:35	議論になっちゃうからいってどう、今は地盤モデルを変えた形で出すとか地盤モデルに浜岡の敷地として二つの異なる地盤モデルがあるという形を考えられてるっていうそういう理解でいいですか。
1:16:52	中部電力のイワセ層です断層モデルの統計的グリーン関数法に使う地盤モデルというものと特定せずの表と標準応答スペクトル評価用の地盤モデルという形でそれぞれ設定をして、
1:17:07	説明をしようと考えています。

1:17:21	はい。規制庁ナイトウです。今どういう考えでおられるかはわからない。
1:17:27	確認しましたんです。そうどうするかはまた審査上の話だと思うので、
1:17:33	はい。
1:18:19	。
1:18:20	はい。規制庁サグチです。
1:18:23	一通りこちらの記述を規制庁側からは確認を幾つかさせていただきましたので、その確認なんかも含めてターボ資料追加されたり、あと構成ですよ、構成の見直しをされると思いますけれども、
1:18:40	これ
1:18:43	審査会合用の
1:18:45	資料として多分次回は、
1:18:49	ある程度こう形にして出していただくと当然思ってますけれども、
1:18:55	今日の確認とか、踏まえて修正とか追加の作業って、
1:19:02	どの程度で規定できそうかというのをもうもし
1:19:07	今わかれば教えていただきたいんですけど。
1:19:11	。
1:19:19	中部電力アマンでございます。2週間以内には何とか耳をそろえたいと思います。
1:19:27	はい、案で確認のさらに確認っていうのもありましたし、場合によってですねもう一度こうヒアリングを設定させて、そこで確認をさせていただくかわかりませんけれども、いずれにしても、ちょっと早い段階でその見通しが立った段階でどれぐらいに
1:19:45	できそうかというのをご連絡いただいて、資料を見た上で、ちょっとヒアリングを設定するか、ああしないか、そのまま会合に行くかっていう形はちょっと我々の方で判断をさせていただきたいと思う。
1:20:02	で、もう一つちょっと、情報として、
1:20:07	という言い方がいいのかどうかはわかりませんが、一応他との案件との関係で、多分早くても会合っていう話が7月の頭かなというところを今想定をしておりますので、
1:20:24	その辺りも踏まえてちょっと修正のほうです。
1:20:28	していただければと思いますので、
1:20:30	よろしく願いいたし
1:20:32	こちらからは確認進めて行いましたけど、中部電力の方から何か確認したいこと等あればお願いします。

1:20:47	中部電力アマノでございます。今の澤邊さんのご指導よくわかりましたので、まず、しっかり供与ご確認いただいた内容で特に資料構成なんかの
1:21:01	変更だとか、少し追記よりわかりやすい表現等を入れる作業を迅速に進めまして0レポート提出できる日付確定次第またタニさんの方にご連絡させていただいて提出して、
1:21:17	資料を御確認いただいて6日ヒアリングなのかそのまま審査に生かしていただくかという御判断いただくということで進めさせていただきたいと思います。よろしく願いいたします。
1:21:29	はい、ではよろしく願いいたします。これをもちまして、本日の浜岡原子力発電所のヒアリングを終了させていただきます。どうもありがとうございました。
1:21:41	ありがとうございました。